



新田辺踏切西側
(昭和 50 年代)



近鉄新田辺駅西側
(昭和 50 年代)



近鉄興戸駅東側
(昭和 50 年代)



大住ヶ丘造成
(昭和 55 年)





同志社大学田辺校地起工式
(昭和 60 年)



第43回国民体育大会
【京都国体】
(昭和 63 年)

松井山手駅周辺

平成元年にJR松井山手駅が開業すると、大阪方面へのアクセスの良さからベッドタウンとして発展し、住宅や大型マンションの建設が進みました。

平成29年には、新名神高速道路（八幡京田辺JCT・IC～城陽JCT・IC）が開通し、京都府の南北が高速道路で結ばれ、ますます便利に。

また、北陸新幹線の新駅設置が予定されるなど、大きな可能性を感じるエリアです。



土
地
開
発



松井山手駅周辺
(平成9年・市制施行年)



新田辺駅周辺

昭和 58 年から約 20 年の歳月を費やした区画整理事業により、近鉄新田辺駅西側はバスロータリー や商業施設の整備などが進み、便利で快適な駅前に生まれ変わりました。

市制施行イヤーの平成 9 年には、JR「田辺駅」が「京田辺駅」に名称変更されるとともに、東西線（京橋～尼崎間）が開業し、大阪方面へのアクセスがますます便利に。平成 6 年には、JR・近鉄線を高架するバイパス国道が開通すると、平成 10 年に、片側 2 車線となる山城大橋（2 代目）が完成。交通の利便性が大きく向上しました。



土
下
今

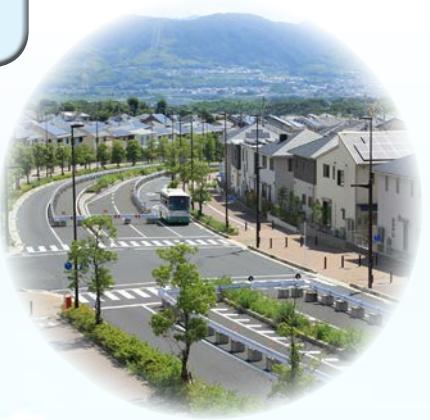


新田辺駅
・京田辺駅周辺
(平成9年・市制施行年)



三山木駅周辺

昭和 61 年に同志社大学田辺校地（現：京田辺キャンパス）が開校すると、多くの学生でにぎわう活気あふれるまちになりました。また、平成 8 年に事業認可された区画整理により、JR・近鉄線の高架化をはじめ、商業施設なども立ち並び、関西文化学術研究都市の北の玄関口としてふさわしい便利で美しい街並みとなりました。平成 20 年にまちびらきした「同志社山手」を中心に、若い世代の人口流入が加速しています。



昔

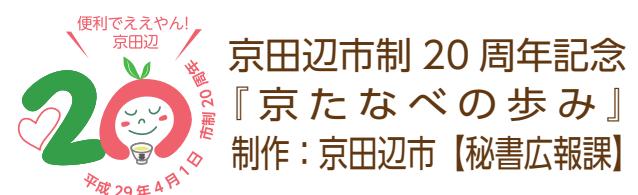


三山木駅周辺
(平成9年・市制施行年)

今



昭和 46 年



昭和 30 年